

1 生徒の体力・運動能力等の現状

令和4年度全国体力・運動能力等調査結果における本校の結果は以下の通りである。

2年生では、男女ともに50m走のみ全国平均を上回ることができた。男女とも上体起こし、20mシャトルランで全国平均を下回っている幅が大きい。運動習慣等調査においては、保健体育場業における運動への取組の意欲は高く、運動は大切を考えているが、日常生活での運動機会は多くは確保されていない。

(2) 年間を通じた日常的な取組

- ① PTAの活動により、生活習慣の改善に向けた取組の充実
- ② 昼休みの体育館・グラウンドの活用の奨励
- ③ 運動習慣の記録化（「Myゴール手帳」の活用）：3年計画

(3) 保護者や関係機関等と連携した取組

- ① PTA活動による保護者への啓発
- ② 保護者アンケートの実施及び結果の公表
- ③ 学校便り等による啓発

1校1実践 「校内体育祭の実践」

2 生徒の体力・運動能力等の現状から分析した課題

運動に関しては、強く長く続ける運動に課題があり、持久力を高める運動を継続的に取り組む必要がある。

運動習慣等については、生活の中のTV・ゲーム等の時間が全国平均より長く、睡眠時間の減少や朝食の欠食などの生活習慣の乱れにつながっている。

3 学年ごとの目標（数値目標）

<体力・運動能力>

学年	目 標
1年	・陸上競技において、競技への取組方法を理解させ、目標を持たせて取り組ませる。短距離走で全国平均と同程度とする。
2年	・新体力テスト8種目のうち、3種目で全国平均を超える。
3年	・新体力テスト8種目のうち、4種目で全国平均を超える。

<運動・生活習慣>

学年	目 標
全学年	・生活習慣の改善に向けた学校の取組を充実させ、職員の自己評価質問項目「運動の喜びや体力の向上、体づくりの大切さを意識させている。」において、A・Bの回答率を90%以上にする。
2年	・運動習慣等調査において、「平日のゲームをする時間」「携帯電話やスマートフォンの使用時間が全国平均を全国平均-2%以内、「健康には運動は大切」「健康には食事は大切」「健康に睡眠は大切」が全国平均-5%以内にする。

4 生徒の体力・運動能力等に応じた具体的な方策

(1) 体育の授業改善を図る取組

- ① 「見通し」「振り返り」の場面を設定し、学習内容の理解と指導の充実を図る。
- ② 生徒による話し合いの場を設定し、指導の充実を図る。
- ③ 保健の授業を通し、「食」「健康」「睡眠」に関する子ども達の意識を高め、生活習慣の改善を図る。

5 実施計画

年月日	計 画 内 容
R5年	
4月	・「体づくり運動」の充実 ・PTAの取組 ・部活動の実施
5月	・体育の授業における「陸上競技」の実施 ○新体力テスト実施（春季） ○R5全国体力・運動能力、運動習慣等調査実施
6月	・中体連
7月	・体育大会（「Myゴール手帳」の活用した運動の記録化） ・保護者アンケート・生徒アンケート・職員自己評価の実施
8月	○新体力テスト結果分析 ○体力向上改善プランの評価・改善 ・保護者アンケート・生徒アンケート・職員自己評価の分析結果を職員に公表
9月	・保護者アンケート・生徒アンケートの分析結果を学校だよりにて公表 ・保護者アンケート・生徒アンケート・職員自己評価の実施
12月	○新体力テスト実施（冬季）
R6年	
1月	・保護者アンケート・生徒アンケート・職員自己評価の分析結果を職員に公表 ・保護者アンケート・生徒アンケートの分析結果を学校だよりにて公表
2月	○保護者への調査結果の説明 ○体力向上改善プランの評価・改善
3月	○新体力向上改善プランの作成

6 評価方法

- (1) 学期毎に職員の自己評価において、A、またはBの割合により分析結果を職員全員で周知し改善を図る。
- (2) 保護者アンケート及び、全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、分析結果を職員全員で周知し改善を図る。
- (3) 保護者アンケート等において、A、またはBの割合により分析結果を職員全員で周知し改善を図る。